

一つの製品が全てに対応するでしょうか？もう一度、考えてみてください。

これは、RPA用に適切なプロバイダを見つけるためのガイドです。



- 1 はじめに
- 2 製品のアーキテクチャと機能
- 3 ユーザビリティと実装
- 4 ベンダーとの関係性

はじめに

広く知られているように、RPA製品のあり方には、RPAプロバイダごとに異なるスタンダードがあるようです。RPAの標準定義があったらどうでしょう。残念ながら標準定義はありません。RPAがユニバーサルサイズになるなどは、期待しないほうが良いでしょう。実際には、すべてのロボットプロセス自動化のプロバイダが、各オファーを個別に特化させています。

皆さんがすべきことは、ご自身に最も合った、不具合なく適合したソリューションを探すことです。もちろん、この探求は容易ではありません。しかし、すべてのピース(RPAはひとつのモノではないのです)が最終的なデザインのなかでひとつになるとき、縫い目の中に潜んでいるヒントはあります。

様々なビジネスシナリオにおいて、RPAを導入しているクライアントやサービスプロバイダとの長年の業務を通じ、UiPathは、組織における選定プロセスの背景にある取り組みを記録することができました。そして、全てを網羅することは不可能であっても可能な限り包括的に、皆さまのプロセスがより効率的に行われるように、基本的なガイドライン一式を描き出すことができました。

皆さまが正しい質問をしている限り、私たちが学んできたこと、そしてこれから皆さまに共有することは、皆さまを成功へ導く重要な知識です。

製品のアーキテクチャと機能

RPAプロバイダを評価する最初のポイントは、その製品がどのよう
に設計・構成されているかでしょう。それが自動化プロジェクト
全体に反映するからです。その製品のアーキテクチャと実用性
は、どの程度効率的かつ効果的に要求事項に適応しているで
しょうか？以下の質問をご自身にもしてみてください。

そのツールは企業向け
に作られたものでしょう
か？

すべてのRPAツールがビ
ジネスレベルで運用でき
るものではなく、また全社
自動化のメリットをもたら
すわけではありません。
このことを理解しておくこ
とが重要です。

企業仕様であるということ
は、大部分を網羅する
プラットフォームによりソ
リューションがサポートさ
れているということの意味
します。リリース管理、レ
ポート、監査および分析
といったキーの全てが、
事業用セキュリティやガ
バナンスのベストプラク
ティス、遠隔操作、集中

スケジューリング、ワーク
ロードマネジメントおよび
アセットマネジメントと完
全に準拠して機能しない
としてもです。アテンド型
の自動化のRPAソリュー
ション(雇用者のデスク
トップ上で実行するRDA-
ロボット型のデスクトッ
プ・オートメーション)、あ
るいはアンアテンド型(常
時監視を必要としない大
規模マシン上の自律型ロ
ボット)のソリューション、
もしくはその両方-ほんの
わずかなプロバイダしか
実現できない-のいずれ
を必要とするかが、意思
決定の大部分を占めるこ
とになるのは明らかです。

スケーラビリティを確保していますか？

スケーラビリティの確保は絶対に必要です！スケーラビリティの容易性と速度は、RPAプラットフォームの大きな強みとなります。業務用とクラウド用、両方を展開しているベンダーに注目しましょう。

インフラのスケーラビリティは大切ですが、それだけでなく運用上のスケーラビリティも大切です。ツールの選択では、自動化の量はたとえ1日の内でも変動することを考慮しましょう。必要な時にいつでも、ロボットの作業負荷を調整できるソリューションに頼れることを望むでしょう。

複雑な自動化ニーズに対する拡張性を備えていますか？

ここまでお話ししてきたように、RPAは、一度置いたらその後は決して動かさない大理石の塊ではありません。RPA製品では、

BPMのような第三者の技術と構造化されていないデータの処理に使用する認識ツールを容易に統合する、柔軟性と拡張性を備えている必要があります。これは、RPAにとってのアキレス腱です。機械学習能力を備えた、デジタル処理と認識インテリジェンスの作成が含まれた、ロジカルなロードマップのあるベンダーを探しましょう。

セキュリティの要求事項に適合していますか？

セキュリティ対策は妥協してはいけません。すべての制御が確実に実施されるように、そのツールがロボットのパフォーマンスや広範囲なアクセス管理制御のモニタおよび計測を、リアルタイムで中央集中コマンド・コントロール機能によりチェックできることを確認します。可監視性は、高度な解析レポートやパーソナルダッシュボードとともに必須の機能です。

ユーザビリティと実装

実装時間は、RPA運用コストのうち30%から75%を占め、通常はライセンス費用の2~3倍になります。このプロセスをいかに早くかつ効率的に進めるかは、どのツールセットを選択するかに大きく依存しています。

そのツールは直感的で利用(再利用)しやすいですか？

言うまでもなく、製品のユーザビリティへの影響は多大です。ビジネスユーザーにとってそのツールが設定・管理しやすいか、また学習が早く再利用性機能があるかは、実装時の容易性と早さを決定するものです。そのツールに高性能な記録機能があり、また最新の画像認識機能を備えた高精度な自動化があるかを確認しましょう。

ソリューション展開時の柔軟性は確保されていますか？

これは、ベンダー選びの

過程で重要な基準となります。ビジネスにはそれぞれ固有の展開シナリオがあります。ソリューションの準備から拡張および工業化までの、特定の段階でのニーズに合致する柔軟な展開モデルが必要となります。

物理的な端末上での展開、オンプレミスでの展開、さらには自律性、プライベート、セキュリティを備えた強力で拡張性のあるクラウドプラットフォーム上での展開のいずれの可能性も考慮した完璧なソリューションを探しましょう。

ベンダーとの関係性

ベンダーとのパートナーシップとプロフェッショナルなサービス品質により、自給性や回復力が決まります。これらをいかに戦略的に使っていくかが、プロジェクトを大きく左右します。

プロバイダはRPAを探している間に積極的にサポートしてくれますか？

完全なROIを獲得したければ、自動化戦略を構築し、エンタプライズ全体にRPAを実装する必要があります。このためには、ベンダーが概念実証から実装までの間、一連の正しい機器を備え、RPAを探すためにサポートしてくれることを確認しなくてはなりません。

プロバイダは自立性や将来性を強化しますか？

RPA戦略を実装する最善の方法は、RPA Center-Of-Excellenceを策定することです。これにより、オーガニゼーションの中のRPAに予測可能で耐久性のある基盤を構築でき、

また、深く根付いたスキルや専門性、将来の展開時の再分散に備えるリソースを得ることができません。

ベンダーの協力的なサポート、詳細なドキュメント、そしてカスタマイズされたトレーニングプログラムにより、迅速に展開できる環境を得、メンテナンスプロセスの強化も行うことができます。

RPAプロバイダについて、技術およびサービスレベルの主要素を査定・評価する際、求める結果はどのようなものであるか、またビジネスの要求事項と期待は何であることを明確にすることは良いアイデアです。ですから、最後に自問してみましょう: 達成したいことは何ですか？

これにより、得られるプロバイダーの能力を評価する際に自身の考えを定着させることができます。

